

あらゆる処理法を駆使 熱処理業の総合企業



株式会社東研サーモテック

ひずみとの戦い 加熱・冷却・雰囲気が肝

自動車・建機業界を中心に、多数の特殊鋼の熱処理を行う東研サーモテック。

「熱処理はひずみとの戦いです。理想は熱処理後に後工程が必要ないことです」と川寄修社長。熱処理によって、鋼の組成を変えるだけでなく、あとの変形も考えた処理が大事になるという。用途によって様々な特殊鋼があり、鋼によって熱処理の条件も細かく異なる。

熱処理のポイントは過熱・冷却・雰囲気だという。ムラなく均等に加熱し、必要な速度でムラなく冷却。加熱中に雰囲気管理で空気を遮断し、雰囲気ガス組成を最適に保つ。これらの条件が揃うことで、ひずみが少なく、表面がなめらかで美しい熱処理が実現するのだ。

組織を変えて 機能を変える

例えば、材料の外部に炭素を0.8%浸炭させ、内部は0.2%と濃度に勾配を持たせる。炭素を入れることによって鋼の外側は硬くなるが、中には炭素を入れないことで柔らかくする。これにより表面に耐摩耗性を持たせつつ内部に柔軟性も持った材料となるのである。

「熱処理は鍛造や鍛造と違い、形は変えませんが、組織を変えて機能を変えるのです」。加熱温度も870℃か850℃かのわずかに20℃の温度差でも結果は大きく違ってくるという。ここに多数の特殊鋼の熱処理を手がけてきた同社のノウハウが活かされる。従業員の半数以上が熱処理技能士の資格を取得している点も強みだ。

炉も自社開発 海外展開も軌道に

「熱処理の分野はすべてカバーする」。同社は真空熱処理、PVD（イオンプレーティング法）、Me-DLC（金属含有DLCコーティング）、ガス浸炭、ガス軟化、ガス窒化等、一般熱処理、表面硬化熱処理、薄膜形成処理において様々な処理法を使い分ける。自社製の熱処理炉は他社からも引き合いがあるという。

海外にもいち早く進出。平成7年に設立したタイ工場は、同国に日本の自動車メーカーが多数進出したことから、他社に先駆ける立場となった。

株式会社東研サーモテック

Company
Profile

住 所／〒546-0041
大阪府大阪市東住吉区桑津5-22-3
創 業／昭和24年4月
設 立／昭和14年8月
資本金／8,800万円
従業員／602名（平成21年1月現在）
T E L／06-6714-2425
F A X／06-6714-0846

ISO 9001
ISO 14001

日本
19

全国
19

関西
19

<http://www.tohkenthermo.co.jp/>



川寄 修さん
代表取締役社長

主な事業内容

金属熱処理加工、薄膜形成処理、PVD、Me-DLC、VC処理、ろう付け、ショットブラスト、ショットピーニング、金属材料成分分析、SEM、熱処理設備の製造販売等

「日本の大企業の技術者でも、熱処理部門の人材は少なくなっています。その隙間に当社が入ってやっていけたら」と川寄社長の表情は明るい。

「金融危機によって不況の様相を呈していますが、これによって日本の自動車・建機業界の世界的競争力が落ちるとは思いません。むしろさらに競争力がつくのではないかと、この厳しい不況期を乗り越えたら、熱処理の分野にもきっと追い風が吹くでしょう」。同社は日本のものづくりを縁の下で支え続ける。